

2022年10月20日

公益財団法人 日本セーリング連盟
公益財団法人 広島県セーリング連盟

地元・広島在住の佐々木 亮さんが選手宣誓 「2022 ハンザワールド」 世界 13 カ国から 114 人が参加



© adamo aono / 2022 Hansa World Hiroshima

プラクティスレースに参加した選手たち

快晴の秋空の下、世界 13 カ国から 114 人のセーラーが集まった「2022 ハンザクラスワールド」が開幕しました。大会初日の今日は全レース艇の計測、選手の運動能力検査もすべて終わり、午後からはプラクティスレースを実施。選手たちは明日からのレース本番に向け最終調整を行いました。

優勝候補の一人、Piotr Cichocki 選手(ポーランド)のコーチは、「我々が広島に来た目的は一つ、優勝すること」と気合い十分です。もう一人の優勝候補 Christopher Symonds 選手(オーストラリア)は、プラクティスレースに向け真っ先にハーバーを出て海面へと向かいました。選手たちは皆、準備に余念がありません。



広島観音マリーナに新設された「山根木材マリーナセンター」

16時30分からは湯崎英彦広島県知事、松井一實広島市長などの来賓が臨席し、開会式が行われました。開会宣言は地元広島あびの会の大和なゆたさん。生まれつき重度の障害を持つ彼女は普通の椅子にも座ることさえ苦労していたそうですが、ハンザクラスに出会い自然の素晴らしさを知ることができたと言い「競うだけでなく楽しんでください」と参加選手にエールを贈りました。



開会宣言をした大和なゆたさん



選手宣誓をした佐々木亮さん

選手宣誓は同じくあびの会の佐々木亮さんが行いました。タブレットでスピーチ原稿を書き、コンピューターが読み上げる形で行った宣誓では、コロナ禍を経て再び集まって大会が行えることに感謝しつつ、「レースでは最後まで諦めることなく戦うことを誓います」と力強く宣誓し、来賓や選手たちから大きな拍手が贈られました。

大会会長でもある日本セーリング連盟・馬場益弘会長は、セーリングは男女・年齢を問わず、障がいの有無に関わらず、誰もが自分に合った楽しみ方ができるインクルーシブなスポーツで、共生社会を創る“新しいスポーツの力”となっているとし、「本大会を通じて、セーリングの魅力の世界に発信し、多様性を認め合う共生社会と生涯スポーツとしての価値を一層高めていきたい」と挨拶。

選手としてリバティに出場する国際ハンザクラス協会のベラ・ブーボッホ会長は、広島という素晴らしい舞台で大会が開催されることに触れながら、「この大会が契機となり、アジアでインクルーシブセーリングが広がること、将来、この大会の倍以上の選手が参加するようになることを願っている」と話し、「明日からは海の上でも会いましょう」と笑顔で挨拶を締めくくりました。

大会 2 日目の明日は、10 時 30 分から「ハンザ 2.3」「ハンザ 303 シングル」「リバティ」の 3 クラスが、14 時 30 分からは「ハンザ 303 ダブル」のレースが行われます。明日、明後日は各クラスとも 1 日 3 レース、最終日は各クラス 2 レースが行われ、全 8 レースの総合得点によって勝敗が決定します。また最終日には「SDGsレース」の表彰も行われます。

レース結果は公式サイトのリザルトページから、また公式写真は下記 URL からダウンロードいただけます。公式映像については個別にご相談ください。

成績 ➡ <https://www.hansaclub-hiroshima-result.com/>

公式写真 ➡ [2022 Hansa World Hiroshima](#)

または <https://www.dropbox.com/sh/6nop28d89quqk2y/AABG8XOixCxE8ErttmWLS2XKa?dl=0>

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

2022 ハンザクラスワールド広島実行委員会

公式サイト: www.hansaclub-hiroshima.com

(岸田首相からのビデオメッセージはこちらでご覧いただけます)

メール: media.hansahiroshima2022@jsaf.or.jp

電話: 西朝子(090-1042-9262)

大会取材をご希望の方は以下のフォームよりメディア登録をお願いします。

【メディア登録】

Google フォームズ

<https://forms.gle/cdfoxf7Bxcug2JtA9>